長浜市
NAGAHAMA

資料４

湖北病院及び湖北やすらぎの里の整備について

湖北病院の整備について（新たな整備の方向性の概要）

○　湖北病院の整備の方向性について、以下の内容で、湖北病院・病院事業と市当局の間で合意し、湖北病院内での意思決定プロセスも終えたことから、病院事業・市当局の方針として公表する

○　湖北病院の医療機能は、地域急性期機能及び慢性期機能とし、入院・救急・外来医療を確保

○　今後も引き続き、巡回診療や訪問診療等を実施することにより、へき地医療を確保

○　救急室や手術室等については病院施設の新築により確保

○　９２床を既存の別館の活用で確保
- 一般病床（地域包括医療病棟）　４８床
- 療養病床　４４床

○　老健施設については、入所６０床、通所１０名分を新築で確保

○　総事業費は７０～９０億円程度を想定　※実施設計時単価から建築費上昇による増加を想定

１．これまでの経過

（１）これまでの経過

令和５年４月	◎「湖北病院及び湖北やすらぎの里施設整備基本構想・計画」策定
令和６年４月	◎基本設計着手
令和６年12月	◎基本設計完了 ◎病院事業の決算見込み公表　→　過去最大の赤字
令和７年７月	◎経営改善実行計画策定　→　湖北病院では令和11年度までの間で約4.2億円の財政支援が必要
令和７年９月	◎基本構想・基本計画の事業収支計画の誤り報告（R7.9.19長浜市議会健康福祉常任委員会） →　過疎債の元本償還額(38.9億円)が未計上であったことが判明 令和12年度以降の複数年において単年度資金不足が発生する見込みに ◎実施設計完了
令和７年11月	◎実施設計完了及び資金不足判明の報告（R7.11.20長浜市議会健康福祉常任委員会） →　総事業費約120億円（基本計画策定時117.1億円） 基本計画では単年度資金不足は発生しないものと見込んでいたが約27億円の資金不足となることが判明

（２）判明した資金不足の状況

資金不足の要因	資金不足額	必要な時期
経営状況の悪化によるもの	約４．２億円	令和11年度までの５年間
過疎債償還額の計上もれ	約１６．６億円	過疎債償還までの30年間（経営改善実行計画期間を除く）
建築工事費の増加に伴うもの	約６．６億円	同上
合　　計	約２７．４億円	

（３）資金不足を踏まえた整備計画の検討

○　現行計画（病院120床・老健90床・総事業費120億円）が上記の資金不足と経営状況の悪化で困難となり、施設整備の方向性について再検討が必要に

○　一方で、湖北病院の整備は、北部地域の医療を守るために速やかな整備が必要であり、資金不足の判明以降、病院事業と市当局により、整備計画の方向性について検討を続けてきた

2．整備計画見直しの基本的な考え方

（1）既存施設を最大限活用

○　利活用が可能な別館（平成18年竣工）を最大限有効に活用することにより、必要な医療機能を維持しつつ、施設整備費用を極力抑えるプランを検討

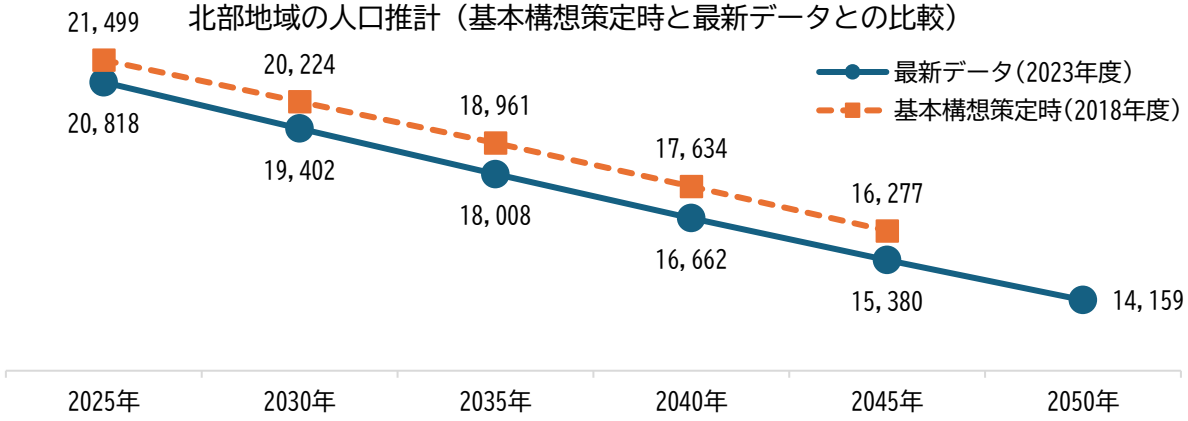





（2）最新の人口・患者推計を踏まえた病床規模の見直し

○　人口減少の進展やコロナ後の受療率低下等の影響で、最新データに基づく将来推計患者数は、基本構想・計画策定時よりも減少

○　将来の推計患者数は、入院・外来とも年々減少していくことも踏まえ、将来の医療の確保を図りつつ、適切な投資規模となるよう、適正規模での整備を検討



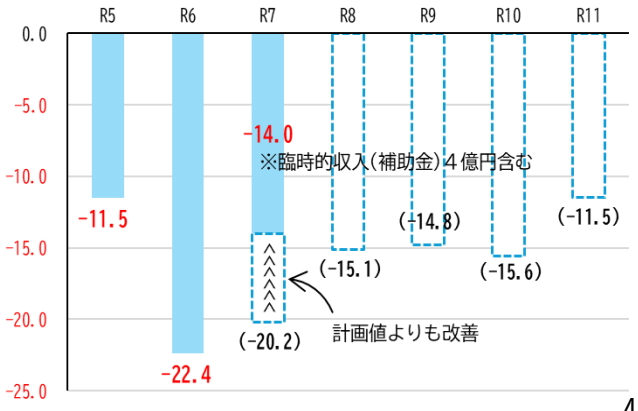
（3）病院事業の経営状況や市の財政状況を踏まえた現実的な事業規模

○　病院事業の経営改善努力に加え、国の緊急支援もあり、令和７年度決算は前年度から一定改善したが、経常損益約14億円の赤字（長浜▲9.8億円、湖北▲4.2億円）となる見込み
※　緊急支援等を除くと、経常損益約17.9億円の赤字（長浜▲12.9億円、湖北▲5.0億円）

○　人口減少の影響は市政全般に及び、市財政も支出が収入を上回る構造となっている
令和６年度から基金も減少局面に入っており、今後も取崩しが続くことが想定される

○　建設工事価格の高騰が続いており、今後も高騰が見込まれる（R7時点:年+5.4%を想定）

○　これらを踏まえると、投資額を極力抑制しつつ必要な医療を確保するための工夫が必要



３．新たな整備の方向性

○　湖北病院の医療機能については、地域急性期機能及び慢性期機能とし、入院・救急・外来医療を確保

○　今後も引き続き、巡回診療や訪問診療等を実施することにより、へき地医療を確保

○　救急室や手術室等については病院施設の新築により確保

○　市北部の地域医療を支える病院として、９２床を別館の活用で確保
・一般病床(地域包括医療病棟)４８床　・療養病床４４床

○　老健施設については入所６０床、通所１０名分を新築で確保

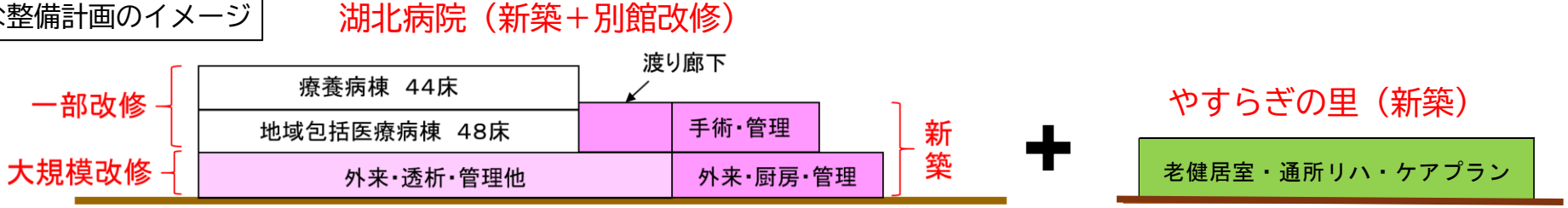
＜参考＞機能別病床数の比較

病　床　機　能	現状（休床除く）	新たな整備の方向性	現行計画
高 度 急 性 期	0床	0床	0床
急　　性　　期	0床	0床	0床
包括期（回復期）	60床	48床	60床
慢　　性　　期	57床	44床	60床
合　　計	117床	92床	120床

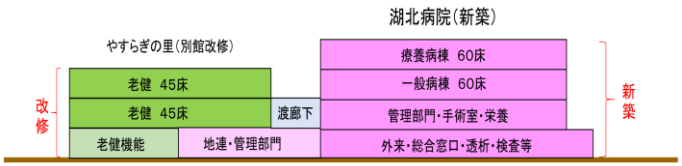
○　総事業費は７０～９０億円程度を想定
※　建築工事費、設計管理費、医療機器等整備費、解体費、外構整備費等を含む
（建築工事費はR7.9時点の単価、医療機器等はR6時点の見積りを使用。今後調整が必要）
※　実施設計時単価から今後の建築工事費高騰や物価高騰などによる増加を想定（更なる高騰の可能性も）

○　新病院の収支見通しについては精査中（R8.6から地域包括医療病棟の入院料算定を開始したことは、収支の改善要因となる見込み）

新たな整備計画のイメージ



4．新たな整備の方向性に基づく施設整備イメージ

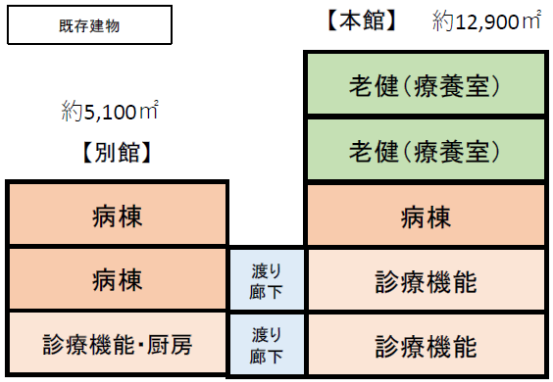
	現行計画	
イメージ（概要）		
	湖北病院	湖北やすらぎの里
工事区分	新築＋別館改修	別館改修
構造	鉄骨造（ＲＣ造）	ＲＣ造
階数	４階建て	３階建て
延床面積	9,000㎡（新築）	5,400㎡（改修）
病床数（療養床数）	120床	90床 （通所リハ利用者数20人）
事業費	約120億円（R7.9時点）	

＜参考＞既存施設の概要

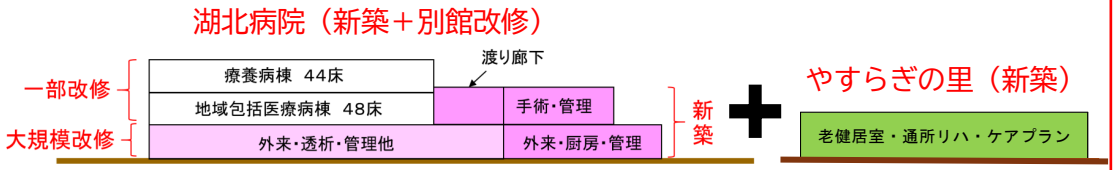
【本館】
・昭和57年竣工
・5階建て
・床面積約10,800㎡

【別館】
・平成18年竣工
・３階建て
・床面積約5,500㎡

【病床数（居室数）】
病院：130床
（稼働117床）
老健：84床（通所リハ利用者数10人）



新たな整備の方向性に基づく施設整備イメージ



湖北病院	湖北やすらぎの里
新築＋別館改修	新築
ＲＣ造（新築：鉄骨造）	木造又は鉄骨造
３階建て（新築：２階建て）	１階建て
引き続き検討	引き続き検討
92床 地域包括医療病棟 48床 療養病棟 44床	60床程度 （通所リハ利用者数10人）
約60億円	約10億円
約70億円	

【新たな整備方針に基づく施設整備イメージについて】

※１：事業費には建築工事費、設計管理費、医療機器整備費等、解体費、外構整備費を含む。
事業費は、今後の建設価格の高騰や物価高騰などにより増加が想定される。
建築工事費はR7.9時点の単価、医療機器等はR6時点の見積りを使用
今後調整が必要。

※２：今後の事業内容の精査により変更する場合がある。

５．今後のスケジュール（イメージ）

（１）当面の対応（令和８年度中）

令和８年

～10月　基本構想・計画の見直し費用の議会上程
　　地域医療構想調整会議での報告・合意
11月　起債に関する総務省協議

令和９年

３月　設計費用の議会上程　※現時点での想定

（２）施設整備スケジュール（令和９年度～）

令和　９～１０年度	基本設計・実施設計
令和１１～１２年度	建築工事（老健新築、病院新築、別館改修他）
令和１３～１５年度	建築工事（本館解体、外構工事他）

※事業進捗等により前後する場合があります。